

# 1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

## たるみグループホーム

- 評価実施期間 平成 18年 11月 4日 から 19年 1月 28日
  - 訪問調査日 平成 18年 12月 4日
- 評価機関名 特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
- 評価調査者 No.G04028(学識経験者・心理士・キャリアコンサルタント)  
No.G04029(社会福祉士・福祉住環境コーディネータ  
障害者就労支援指導者)
  - グループホーム所在地 兵庫県神戸市垂水区平磯4丁目5-13
  - 開設年月日 平成 16年 4月 1日
  - 定員 ( 3 )ユニット ( 27 )名
- 第三者評価結果  
◇全体を通して

### ◇社会福祉法人「明進會」について…◇

●平成12年に「たるみ保育園」の開園をもって福祉事業を始め、平成16年4月の同園の拡充に伴い、地域福祉の一貫として、隣地に5階建て施設を新築し、高齢者介護にも取り組む。  
●1階には「たるみ保育園」と「えがいの窓口(居宅介護支援事業)」を、2階にはデイサービス「ほがらか」を運営し、「たるみグループホーム」は、3階から5階の3ユニット(27室)。**【添付の資料写真も参照】**

### ◇「たるみグループホーム」について…◇

●同建物は、JRまたは山陽電鉄「垂水」駅より南へ徒歩2分の街中に在り、南に国道2号線も通り、交通の便は極めて良い。「海(かい)神社」のすぐ東。**【添付の資料写真も参照】**  
●屋上からは、北に六甲山系、東に神戸市街地、南に明石海峡大橋・淡路島…と一望できる絶好のロケーション。毎夏の「みなと神戸花火大会」を、入居者、家族、地域住民たちが一緒に観賞し、楽しむ。  
●フロアからベランダに出れば、保育園児のはしゃぎ声が入居者の心を和ませる。月々の誕生会は保育園のホールで行い、遊戯室で一緒に歌を歌うなど、『幼・老の触れ合い』は、このホームでの暮らしの特長の1つであり、心身機能の維持・改善に大いに役立っている。  
●地域住民に“第三者委員”に就いて頂くなど、地元地域においてすでに存在感のあるホームになっている。9月には地域包括支援センターの職員参加による家族会を開催した。  
●高齢者介護を対象とした施設運営ノウハウは、これから蓄積してゆく部分もあるが、経営の安定、人材、環境整備の面からみて、それらも十分に期待できる。  
●入居者同士の仲が良く、ホームの来訪者を温かく包み込んでくれる雰囲気がある。これは、ケア職員の仕事に対する意欲の高さや礼儀の良さはもとより、日々、入居者へ温和に接していることの表れに、ほかならない。  
●保育園やデイサービスとの合同イベント(演劇、音楽会など)により、それらの施設利用者とホーム入居者との交流も多い。ホームが所有するバス(最近購入)で、淡路島や須磨水族園へ出かけたりもし、生活での楽しみごとの機会を強く意識している。

## ◇分野・領域別

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示	○	
3	運営理念等の啓発	○	
特記事項			
◎要改善項目は特になし ●運営理念「察し合い、歓び合い、折れ合い、合わす」を、各フロアのエレベーター前に掲示し、意識している。 ●運営主体である「明進會」としてパンフレットが作成され、また、3か月に一度、広報誌を発行している。 ●見学者の受入れや、“第三者委員”に婦人会会長を招聘するなど、ホーム啓発を行なっている。 ●利用者の権利・義務は、「重要事項説明書」等、各種書面に明示されている。			

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮		○
8	場所間違い等の防止策	○	
9	生活空間としての環境の配慮	○	
特記事項			
●玄関、廊下等の共用スペースには、調度品や装飾品が置かれ、リビングは、家庭の居間としてのくつろげる雰囲気作りがなされ、そこで、入居者が集い、談笑し、歌ったりしている。 <b>【添付の資料写真も参照】</b> ●入居者同士の触れ合いを大切に、皆で語らえる環境づくりとして、食事の際は、いつもユニットごとに皆で1つの大きなテーブルを囲んでおり、いわば“大家族のような食事風景”がそこにある。入居者それぞれのADLにあわせ、椅子の高さ調節や、車椅子利用の入居者にとっても箸を運びやすいようにお盆を利用するなどし、個々が気持ちよく食事できる工夫がされてもいる。 <b>【添付の資料写真も参照】</b> ●屋上は、全面がビオトープとなっており、花・野菜の栽培ができ、また、手近な散策コースとしても利用している。 ●ホーム開設から3年近くが経ち、ユニットによっては、入居者の身体レベルの低下に伴う追加の安全対策を検討する時期に差しかかっている。			

Ⅲ ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画	<input type="radio"/>	
11	介護計画の見直し		<input type="radio"/>
12	個別の記録	<input type="radio"/>	
13	職員間での確実な情報共有	<input type="radio"/>	
14	チームケアのための会議	<input type="radio"/>	
15	入居者一人ひとりの尊重	<input type="radio"/>	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア	<input type="radio"/>	
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援	<input type="radio"/>	
18	一人であることへの配慮	<input type="radio"/>	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	<input type="radio"/>	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	<input type="radio"/>	
21	個別の栄養摂取状況の把握	<input type="radio"/>	
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援	<input type="radio"/>	
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮		<input type="radio"/>
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	<input type="radio"/>	
25	理美容院の利用支援	<input type="radio"/>	
26	プライドを大切にしたい整容の支援	<input type="radio"/>	
27	安眠の支援	<input type="radio"/>	
28	金銭管理の支援	<input type="radio"/>	
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	<input type="radio"/>	
30	医療関係者への相談	<input type="radio"/>	
31	定期健康診断の支援	<input type="radio"/>	
32	心身機能の維持	<input type="radio"/>	
33	トラブルへの対応	<input type="radio"/>	
34	口腔内の清潔保持	<input type="radio"/>	
35	服薬の支援	<input type="radio"/>	
36	緊急時の手当		<input type="radio"/>
37	感染症対策		<input type="radio"/>
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	<input type="radio"/>	
39	家族の訪問支援	<input type="radio"/>	

特記事項

- 介護計画の見直しに関しては、緊急時には随時、定期的には6か月ごとにはできているものの、もう少し短期での(3か月ごと)定期的見直しの実施についても取り組んでみたい。
- 付近の交通量の多さから、安全面を配慮して、玄関は日中も施錠することになっているが、毎日、入居者と職員と一緒に散歩に出かけたり、屋上での花の水やりなどの役割を持ってもらっており、外の空気に触れ、また、気分転換をする機会も多く提供されている。
- 応急時対応および感染症対策のマニュアルが整備されている。医療を中心とした職員講習会については何度か開催しているが、定期的な実施を望みたい。
- 楽しみごとの支援として、垂水駅前の「カラオケ」に月に1度訪れたり、「百人一首」や「マンダラ塗り絵」を楽しんだり…と、入居者のADLや嗜好に合わせたレクリエーションの企画が工夫されて(ホームとして研究されて)いる。
- 2階会議室に、喫茶コーナー「アルカンシェル」を設け、お気に入りのケーキやお茶が注文でき、入居者、職員、家族…の憩いの場となっている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	<input type="radio"/>	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	<input type="radio"/>	
42	継続的な研修の受講		<input type="radio"/>
43	ストレスの解消策の実施		<input type="radio"/>
44	退居の支援	<input type="radio"/>	
45	ホーム内の衛生管理	<input type="radio"/>	
46	事故の報告書と活用		<input type="radio"/>
47	苦情への的確で迅速な対応	<input type="radio"/>	
48	家族とのコミュニケーション	<input type="radio"/>	
49	地域の人達との交流の促進	<input type="radio"/>	
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ	<input type="radio"/>	
51	ホーム機能の地域への還元	<input type="radio"/>	

特記事項

- 組織運営のノウハウは保育園経営で培われたものがあり、高齢者介護においても、地域住民からの信用は厚い。
- 『幼・老一体』経営は、ホーム入居者へのケアに役立つことはもちろん、地域住民との交流もしやすく、また、職員の広い視野を養うことにもつながり、いろいろな面で相乗効果は高い。
- 職員への研修体制は整備されてきたが、研修参加の機会はまだ十分とは言えず、また、研修の参加報告、研修内容の伝達の仕組みも検討していただきたい。これらが整備により、さらなるケアサービス、ホーム運営機能の充実が期待できよう。
- 職員親睦会を行なうなど、他ユニットや他職種との交流機会も徐々に持ってきており、今はスーパーバイザーについて検討中である。
- 「事故報告書」と「ヒヤリハット報告書」の混同が見受けられる。ヒヤリハット活動は、事故未然防止の取り組みとして活きるものであることから、進めてもらいたい。
- “第三者委員”を2名置くなど、相談や苦情を受け付ける体制は整備されている。ホーム内にも苦情相談窓口の案内がなされ、重要事項説明書には苦情解決の流れを分かりやすく図示するなど、その周知にも積極的に取り組んでいる。
- ホームの地域開放については、近隣住民ほか見学者を頻繁に受入れている。以前の課題であった専門学校の実習生や“トライやるウィーク”の生徒の受け入れも実践した。
- ホームでは、例えば、「海(かい)神社」のお祭りに合わせて、夏祭りを開催するなどして地域との親睦に努め、また、地域住民の側では、毎月、“シルバーカレッジ”や“婦人大学”の皆さんが、ボランティアで各種の催しに来訪されてもおり、地元地域に密着した福祉施設として、絆ができています。





▲ホーム外観（1階には保育園を併設し、交流も多い）

▼大きな食卓（食事を楽しむ工夫がなされている）



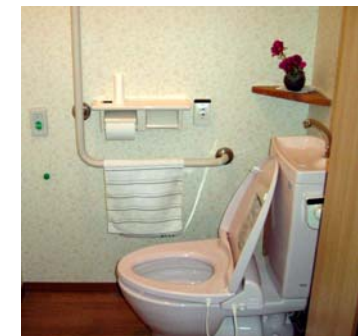
リビング（温かな雰囲気作りがなされている）▼



▲海（かい）神社



▲居室フロア（エレベーター前にも、くつろぐスペースを確保）



各居室にもトイレを備える▲

## 2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>I 運営理念 1. 運営理念の明確化</b>						
1	1 ○理念の具体化と共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム（以下「グループホーム」という。）に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム（以下「ホーム」という。）の運営上の理念・方針や目標等に具体化し、介護従業者や利用者及びその家族等に伝わるように明示し、かつ、説明している。	○			各フロアーのエレベータ前に理念が掲げられ、それらがケア内容に活かされ、常に職員が意識を持って、職員間でのチームケアに重点をおき、日々の業務に就いている。	運営理念は、「察し合い、歓び合い、折れ合い、合わす」
2	3 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			「重要事項説明書」「入居契約書」「利用契約書」に明記されており、入居者及び家族等に説明したうえで同意、署名を得ている。	
<b>2. 運営理念の啓発</b>						
3	4 ○運営理念等の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、ホームの考え方を伝える機会づくりや広報に取り組んでいる。（ホームの説明会、ホーム便り等）	○			法人としてパンフレットが作成され、3か月に1度広報誌を発行している。また、第三者委員として地区婦人会会長や幼稚園園長を招聘し、入居者のプライバシーに配慮しつつ、見学者の受け入れを積極的に行なうなど、ホームの啓発に取り組んでいる。	
<b>I 運営理念 3項目中</b>		<b>計</b>	3	0		
<b>II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり</b>						
4	5 ○馴染みのある共用空間づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、いずれも違和感や威圧感を感じさせず、馴染みの安心できる雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾もそのための工夫がされている。特に玄関周りは家族や近隣住民も入りやすいよう草花を植える、親しみやすい表札をかける等の配慮をしている。	○			玄関や共用スペースには、調度品や装飾品が置かれ、リビングは心落ち着く空間になっており、入居者が集い、歌を歌ったり、談笑したりしている。また、リビングには入居者が摘んできた花が飾られている。【添付の資料写真も参照】	共有空間の雰囲気作りに、日々の職員の努力が感じられる。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
5 6	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			エレベータ前のソファや椅子、リビングのソファ等で自由に過ごすことができる。【添付の資料写真も参照】	
6 7	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			多くの入居者は、使い慣れた家具を持ち込んでおり、これを持ち込んでいない入居者は、絵や写真を貼り、室内を装飾している。各居室からベランダに直接出ることができ、そこにプランターを設置し、好みの花を植えている。	
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり						
7 9	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。 (すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			手すりが要所へ設置されているが、ユニットによっては入居者の身体レベルの低下に伴って追加の安全対策が必要になってきている。マットセンサーを設置している居室もある。	特に、浴室など転倒しやすい場所での手すりや手掛かりの追加設置を望む。
8 11	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。 (トイレや部屋の目印等)	○			各居室に表札(名札)が掲げられ、目印やラベルが貼られている。また、表札等の高さは入居者に合うよう調整されている。	
9 12	○生活空間としての環境の配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮し、換気、温度調節を適切に行っている。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し、冷暖房の調節等)	○			共用部は全て間接照明で、やさしい雰囲気が醸し出されている。リビングにはテレビやCDプレイヤーがあり、音の大きさにも配慮されている。各居室はエアコンによって、それぞれの入居者に合わせた室温調整をしている。	
II 生活空間づくり 6項目中 計		5	1			



項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント</b>						
10	15	○			介護計画の作成にあたっては、入居前後と、後の定期的なアセスメントに基づいて、それぞれの個性が活かされるよう、本人や家族から情報を収集し、サービス担当者会議等で話し合いが持たれ、実現可能な生活目標が具体的に示される。	ケア会議に入居者自身や家族も参加してもらおう意向である。
11	16	○			随時見直しについては、家族への現状報告をするとともに、実行されている。6か月の定期見直しはできているものの、3か月の定期見直しはできていない。	3ヶ月の定期的見直しを個別年間予定に組み入れてほしい。
12	17	○			入居者の日々の様子(行動、発言等も含めて)、入居者ごとに個別サービス記録にまとめられている。	
13	18	○			日々の情報共有方法として、連絡ノートを活用し、また、口頭においても各職員に伝えている。連絡ノートには、各職員が確認サインをしている。	
14	19	○			ケア会議とフロア会議が月に1度開催され、全職員が意見書を提出している。欠席した職員には会議録等によって内容が周知されている。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
第三者 自己	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
15	20	○			職員は入居者一人ひとりの性格や行動パターンを把握し、声掛けの際には、ゆったりと声掛けし、その人が笑顔でいれるような言葉で(言葉を選び)会話を行なっている。この様子からも、日々の職員の対応の良さが窺える。	入居者それぞれが居場所を持っていて、そこで談笑する様子が見られた。
16	23	○			入居者との会話の中から、それぞれの経験や趣味、生活歴を把握し、日常のケアに活かしている。それらをケア日誌に記録し、会議等を通して職員間での情報共有に努めている。	
17	25	○			職員は、入居者の表情や話の調子を観察し、会話にあたっては、入居者が自己選択・自己決定のできる機会を盛り込むよう心掛けている。	
18	27	○			入居者の心身状態を確認しながら、得意な場面(できそうなこと)を意図的に作り、声かけと、見守りを中心とした支援をしている。職員間で入居者それぞれができることについて、情報交換に努めている。	
19	29	○			入居者個人の行動パターンの把握は大まかにできている。職員と一緒に毎日散歩に出かけたり、屋上の花の水やりなどを行っている。	ホームのすぐ近くを国道2号線が通っており、交通量が多いことから、安全面の配慮を優先し、日中でも玄関は施錠することになっている。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			普段は栄養士の献立に従って、身体機能に応じた食事の提供を行なっているが、月に1回は入居者とともに献立から買物まで、職員と協働している。	
21	34	○			入居者それぞれの食事量や水分摂取量をチェックし、表に記録し、おおよその把握ができています。	
22	36	○			職員は入居者と同じテーブルで同じメニューの食事を行ない、皆を見守り、声かけにも気配をしながら、食が進むようサポートしている。また、箸と茶碗は、個々の入居者の馴染みの物を使用している。【添付の資料写真も参照】	
2) 排泄						
23	37	○			職員は、個々の排泄パターンを大まかに把握しており、声かけと誘導を行っているが、直接的な表現を用いて排泄誘導をしている場合もある。	特に敏感になる場における声かけの配慮と、それら全職員の意識を高めることも望まれる。
3) 入浴						
24	41	○			入居者それぞれに、入浴前のバイタルチェックや表情観察を行ない、入浴の可否を見極めている。着脱衣から入浴まで一貫して一人の職員が対応している。	



項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容						
25	43	○			往復路の職員の付添い支援のもと、近隣の理美容院を利用し、パーマや毛染めを行なっている。	
26	44	○			さりげなくカバーしながら、衣類の調整にも職員が気を配っている。特に、外出や行事時には口紅やマニキュア、コーディネート等の手伝いをしている。	
5) 睡眠・休息						
27	47	○			職員は、入居者それぞれの入床・起床時間や睡眠パターンを大体把握できている。日中は本人のペースに合わせながら、それぞれの役割を行なってもらうなど、1日の生活リズムづくりに心掛けている。	
(3) 生活支援						
28	51	○			金銭感覚が確かな一部の入居者は、自分で財布を持ち、買物に職員が同行している。その他の入居者は、金銭管理規程に基づいてホームが預かり金として管理しており、出納状況については、月に一度、家族に対して報告している。	
(4) ホーム内生活拡充支援						
29	53	○			入居者の生活暦などに基づいて本人の得意なことを活かした場面作りをし、それぞれに役割を持ってもらい、手伝って頂けそうなことについては声かけをしながら職員と協働している。また、一年を通して季節行事を行なっている。	

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55	○			ホームとして嘱託医と提携医療機関を確保しており、嘱託医にはいつでも気軽に相談ができる。通院の支援も行なっている。	【提携医療機関】 内科…武村内科(嘱託医) 総合…沖縄徳州会神戸徳州会病院 総合…神戸掖済会病院 歯科…杉本歯科クリニック
31	61	○			嘱託医において、入居者全員が定期健康診断を受けている。	
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63	○			職員は、入居者それぞれの精神症状を大まかに把握しており、日常生活の中に入居者それぞれに合った役割を盛り込み、心身機能の低下防止策を実践している。また、季節を肌で感じるよう、外出行事や散歩を行なっている。	
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65	○			トラブルの未然防止に努めているが、万が一、トラブルが発生した際には双方の言い分を聞き、孤立する入居者が発生しないよう心掛けている。	日中は、入居者がよくリビングに集まり、談笑している…のが日常の姿である。
(8) 健康管理						
34	67	○			協力歯科医から指示を得て、毎食後、うがいや歯磨きを行ない、口腔清潔保持を実践している。	

項目番号 第三者自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35 70	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			入居者個別ファイルをもって、職員は情報を共有し、薬の管理、服薬の確認を行ない、記録表に記載している。新たな薬が処方された場合は、様子観察を行ない、ノートに記録し、医師に報告している。	
36 72	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		応急時対応マニュアルはある。医療を中心とした職員講習会を以前は開催していたが、継続されていない状況である。	緊急対応については、継続的な講習や実習が求められる。
37 73	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)		○		感染症対応マニュアルがあるが、定期的な勉強会の開催が少ない。	感染症対策についても、定期的に学ぶ機会を設けていただきたい。
3. 入居者の地域での生活の支援						
38 77	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			入居者の体調や時間を考慮した上で、普段は買物や散歩、役割等において、職員同行により極力外出するよう心掛けている。月に1度の外食、近隣の喫茶店や本屋に出掛けている。	
4. 入居者と家族との交流支援						
39 81	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族アンケートにおいて、ほとんどの家族が肯定的な回答をしており、気軽に訪問でき、居心地よく暮らせている様子が窺える。また、大きな行事等への家族への参加の働きかけ、案内を行なっている。	
III ケアサービス 30項目中		計	26	4		

項目番号 第三者 自己	項目	できて いる	要改善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>IV 運営体制 1. 事業の統合性</b>						
40	83	○			1階に保育園、2階にデイサービスを併設し、園児やデイサービス利用者との交流ケアサービスを特色としている。 <b>【添付の資料写真も参照】</b> 管理者は、各職員が主体性を持って取り組めるように運営を図っている。	
<b>2. 職員の確保・育成</b>						
41	87	○			各ユニットとも日勤帯で最低3人の職員を確保し、行事の時はこれを増員している。入居者の状態に合わせて臨機応変にローテーションを組んでいる。	
42	89	○			職員が外部の研修に参加することができる仕組みができてきたが、受講の機会がまだ不足しており、研修内容を報告する機会も組めていない状況である。	「明進會」全体としての継続可能な研修体制の整備、学習内容の伝達の機会として各ユニットで10分間報告をするなど、小さなことから始めていく体制作りが求められる。
43	91	○			職員親睦会を行なうなど、徐々に他ユニットや他職種との交流機会が持ってきており、スーパーバイザーの提供を検討中である。	全ユニット交流の機会を増やしていただきたい。
<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>						
44	95	○			入居者及びその家族の意向を聴き、併設する居宅介護支援事業者等とも連携して、退去のために必要な援助を行なっている。	



項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>4. 衛生・安全管理</b>						
45	98	○			布巾やまな板は毎晩消毒を行ない、その他の器具も定期的に清掃、消毒を行なっている。危険物やゴミの処理については、取り決めがあり、実行されている。	
46	102		○		事故報告書とヒヤリハット報告書の混同がみられ、ヒヤリハット事例がやや少ないと感じる。	ヒヤリハット活動は、積極的に取り組んでいかれることを期待する。
<b>6. 相談・苦情への対応</b>						
47	106	○			第三者委員を2名置くなど相談や苦情を積極的に受ける体制になっている。また、ホーム内にも苦情相談窓口の案内がされ、ホームとして開かれた対応がなされている。	重要事項説明書に苦情解決の流れ図を図示し、ひと目で分かる工夫をしている。
<b>7. ホームと家族との交流</b>						
48	107	○			月に1度、行事のときの写真や、日々の様子を伝える写真を掲載した「たるみグループホーム新聞」や「ホームたより」を発行し、家族向けにコメント欄を設け、記入のうえ、送付している。	9月には地域包括支援センターの職員も参加した家族会を開催した。
<b>8. ホームと地域との交流</b>						
49	112	○			自治会に加入し、ホーム広報誌を配布したり、季節行事などイベントに訪れて頂けるよう働きかけており、地域住民との交流も上手くいっている。夏の花火大会は、屋上を開放して地域住民とともに鑑賞をしている。	1階に保育園を併設していることから、地域住民の出入りは多く、ごく自然な地域交流がなされている。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
50 114	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			第三者委員に婦人会会長、明舞幼稚園園長を招聘するなど、開設当初から周辺地域への働きかけを活発に実践している。また、平磯町内会(東垂水消防団)と近隣防災協定を締結し、非常時の協力を得ている。	ホーム内イベントへの地域住民の参加の呼びかけなど、さらなる働きかけに期待したい。
51 115	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、認知症ケアに関わる知識・技術等を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)	○			近隣住民等を始めとした見学者を頻繁に受け入れ、専門学校実習生やトライやるウィークの生徒の受け入れも実践に移した。	今後は、一般近隣住民等を対象とした○○教室の開催など、さらなる地域開放に期待したい。
<b>IV 運営体制 12項目中 計</b>		9	3			

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。